

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【公開番号】特開2002-181057(P2002-181057A)

【公開日】平成14年6月26日(2002.6.26)

【出願番号】特願2000-383932(P2000-383932)

【国際特許分類】

F 1 6 C 33/78 (2006.01)

B 6 1 F 15/22 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 33/78 Z

B 6 1 F 15/22

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月17日(2007.12.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内輪の両端に当接する油切りと、該油切りの外周面と摺接するリップを有し、外輪の両端部に固定されるオイルシール手段とを備えた鉄道車両用軸受装置において、該鉄道車両用軸受装置内に前記リップと前記油切りとによって区画された密閉空間を形成し、前記リップに逆止弁を設けたことを特徴とする鉄道車両用軸受装置。

【請求項 2】 前記リップが外側リップと内側リップとを有し、前記外側リップと前記内側リップの少なくとも一方に前記逆止弁を設けたことを特徴とする請求項 1 記載の鉄道車両用軸受装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

【課題を解決するための手段】

本発明の前記目的は、内輪の両端に当接する油切りと、該油切りの外周面と摺接するリップを有し、外輪の両端部に固定されるオイルシール手段とを備えた鉄道車両用軸受装置において、該鉄道車両用軸受装置内に前記リップと前記油切りとによって区画された密閉空間を形成し、前記リップに逆止弁を設けたことを特徴とする鉄道車両用軸受装置によって達成することができる。前記リップが外側リップと内側リップとを有し、前記逆止弁が前記外側リップと前記内側リップの少なくとも一方に設けられていてもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

図 1 に本発明の第 1 実施形態である鉄道車両用軸受装置（以下軸受装置）10 のオイルシール 13 付近の要部断面図を示す。軸受装置 10 の図示しない他の構成については、図

10に示す軸受装置100と同様の構成である。図1に示すオイルシール13において、外周部131の内周側端部に固着されたシール部材11の外側リップ14には、外気に触れている空間CとグリースGが充填されている密閉空間Aとを連通する楕円形状の開口12と逆止弁14aが設けられている。逆止弁14aは、開口12を覆うように外側リップ14の密閉空間A側に一つ取り付けられている。ここで、グリースGとしては、例えば、リチウム系グリース等のグリースや潤滑剤含有ポリマー部材等を適宜選択できる。